日本科学者会議（JSA）滋賀支部 講演学習会

# ドイツの挑戦－
# エネルギー大転換の日独比較

吉田文和愛知学院大学教授が昨年末に日本評論社から上記の本を出版され、この本は高く評価されて今年度の環境・経済学会論壇賞に輝きました。日本もエネルギーを早急に転換することが強く求められています。JSA 滋賀支部では吉田さんを講師に招いて、下記の要領で講演学習会を行うことになりました。皆さま多数ご参加下さい。

日時：2016 年 11 月 26 日（土）午後 3 時～4 時 50 分
会場：明日都浜大津 4 階、ふれあいプラザ 中会議室（京阪浜大津駅すぐ）
講師：吉田 文和 愛知学院大学経済学部教授（北海道大学名誉教授）

## ○講演に当たって

日本のこれからのエネルギーをどのように賄うのか。東京電力福島第一原子力発電所の事故から５年以上経つなかで、日本の「ゼロ原発」が３年続き、原子力発電なしでも日本の電力が十分賄えることが明らかになった。しかし、電気料金の値上げと地球温暖化を促進する $CO_2$ 排出量増加などに対処するという理由で、原子力発電所の再稼働が進められている。

これに対して、福島原発事故を最終的な契機として、脱原発を決めたドイツは 2022 年までに最終的な「ゼロ原発」を目指すとともに、再生可能エネルギーと省エネルギーの徹底による「エネルギー大転換」を進めている。

日本とドイツは戦後、世界第一級の工業国に成長し、両国ともに核武装を行わず、原子力の民生利用を進めてきた。しかし、日本は福島原発事故を経たあと、再び原子力発電所を稼働させる方向に進み、これに対してドイツは脱原発を段階的に行おうとしている。この違いは、一体どこから来ているのか。とくに、ドイツは原子力の代わりに、再生可能エネルギーの拡大と省エネルギーを抜本的に進める「エネルギー大転換」を目指している。日本には、この見通しはないのか（吉田）。

なお、講演学習会の後、５時過ぎから近くで吉田さんを囲んで懇親会を行います。懇親会会場では、先生のご厚意により著書（約 2,600 円）が 2,000 円で求められます。

## ご来聴歓迎（無料）、申込み不要

JSA は日本の科学が自主的、総合的に発展することを願い、科学の分野に携わる者の社会的責任を果たそうと、50 年余り前に全国的に創立され、良心的な自然、社会、人文科学の科学者・研究者、技術者、医者、弁護士、教員、大学院生などが結集し、活動している総合学術団体です。

日本科学者会議滋賀支部
問合せ先：小島　彬（事務局長）
電話：077-589-3724（FAX 兼用）、e-mail：akrkojima@ybb.ne.jp